

14時30分解禁

平成22年11月 全国百貨店売上高概況

平成22年12月20日

I. 概 況

1. 売上高総額	5,556億円余
2. 前年同月比	-0.5% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	91社 261店 (平成22年10月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,437,641㎡ (前年同月比:-2.9%)
5. 総従業員数	93,570人 (前年同月比:-6.2%)
6. 3か月移動平均値	4-6月 -4.0%、5-7月 -3.1%、6-8月 -3.5%、 7-9月 -3.1%、8-10月 -2.5%、9-11月 -1.6%

[参考] 平成21年11月の売上高増減率は-11.8% (店舗数調整後)

【11月売上の特徴】

2か月ぶりの前年同月比マイナスであるが、減少幅は-0.5%とほぼ前年並みに推移したことで、基調を示す3か月移動平均は-1%台('08年2-4月-1.4%以来31期ぶり)まで水準を戻した。

11月は、エコポイントの駆け込み需要を除いて、景気や個人消費に明確なプラス材料が少ない中、平年並みの気温低下が見られたことや各店の積極的な催事展開などを背景に、この時期主力の季節商材である秋冬物重衣料のほか、おせちやクリスマスケーキの受注なども好調に推移したが、前年に比べ日曜日が一日減少したこと、並びに一部地域(北日本)の天候不順による売上不振などの影響から、最終的には前年実績を僅かに下回る結果となった。

具体的な動向としては、一部店舗の改装工事による面積減少などマイナス要素がある一方、主力の婦人衣料が好調に推移(2か月連続プラス)したこと、長期間減少傾向にあった化粧品がプラスに転じた(2か月ぶりプラス)こと、最近の家庭回帰志向を背景に家庭用品が好調を維持していること、などのプラス要素が報告されている。なお、11月に展開された歳暮商戦前半の動向はほぼ前年並みに堅調推移した。

【要 因】

- (1) 天 候 : 気象庁発表「11月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
◇ 東日本以西では10月までに比べ寒気の影響を受けやすく、月平均気温が平年並みになったが、北日本は冬型の気圧配置が持続せず気温が高かった。全国的に天気は概ね数日の周期で変化した。
- (2) 営業日数増減 29.9日(前年同月比±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日(〃 日曜1日減)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
①増加した: 61店、②変化なし: 28店、③減少した: 43店、④不明: 45店
- (5) 11月歳時記(文化の日、勤労感謝の日、七五三、歳暮)の売上(同上)
①増加した: 39店、②変化なし: 41店、③減少した: 45店、④不明: 52店
- (6) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
①増加する: 22店、②変化なし: 74店、③減少する: 29店、④不明: 52店

全国百貨店 売上高速報 2010年11月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	555,657,695	100.0	-0.5 (-1.4)
10都市	357,349,113	64.3	-0.2 (-0.5)
札幌	12,650,105	2.3	-3.9
仙台	7,100,586	1.3	0.5
東京	142,924,940	25.7	0.3
横浜	32,418,188	5.8	-0.6
名古屋	31,542,395	5.7	3.3 (0.6)
京都	21,449,909	3.9	-2.1 (-3.7)
大阪	67,561,188	12.2	-1.2
神戸	15,171,902	2.7	-0.1
広島	12,384,070	2.2	-1.8
福岡	14,145,830	2.5	-0.2
10都市以外の地区	198,308,582	35.7	-1.1 (-2.9)
北海道	3,072,428	0.6	-6.6 (-19.1)
東北	11,033,530	2.0	-3.4
関東	95,114,951	17.1	-0.7 (-3.3)
中部	15,182,194	2.7	-3.8 (-7.8)
近畿	19,111,401	3.4	1.8
中国	13,725,196	2.5	-2.6
四国	10,113,197	1.8	-1.6
九州	30,955,685	5.6	-0.4

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	555,657,695	100.0	-0.5 (-1.4)
紳士服・洋品	42,860,067	7.7	-1.3 (-2.1)
婦人服・洋品	126,563,966	22.8	0.3 (-1.0)
子供服・洋品	11,901,373	2.1	-4.8 (-5.3)
その他衣料品	14,429,525	2.6	-6.8 (-8.4)
衣 料 品	195,754,931	35.2	-0.9 (-2.1)
身のまわり品	60,117,484	10.8	-2.1 (-2.9)
化粧品	29,752,647	5.4	1.4 (0.9)
美術・宝飾・貴金属	23,388,314	4.2	-4.4 (-5.3)
その他雑貨	22,290,417	4.0	-4.3 (-4.5)
雑 貨	75,431,378	13.6	-2.2 (-2.7)
家 具	6,883,953	1.2	-6.1 (-6.4)
家 電	2,584,346	0.5	28.4 (27.8)
その他家庭用品	18,292,535	3.3	4.1 (3.5)
家 庭 用 品	27,760,834	5.0	3.2 (2.6)
生 鮮 食 品	36,937,883	6.6	-0.2 (-0.9)
菓 子	36,962,407	6.7	0.1 (-0.7)
惣 菜	31,443,484	5.7	-1.6 (-2.1)
その他食料品	59,075,643	10.6	-0.2 (-1.3)
食 料 品	164,419,417	29.6	-0.4 (-1.2)
食 堂 喫 茶	14,003,799	2.5	-1.9 (-2.5)
サ ー ビ ス	6,303,377	1.1	0.2 (-0.5)
そ の 他	11,866,475	2.1	18.9 (18.7)
商 品 券	28,155,200	5.1	5.6 (4.8)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -0.2% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -1.1% (// /41か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-0.2	-0.1	2か月ぶりマイナス
札幌	-3.9	-0.1	9か月連続マイナス
仙台	0.5	0.0	31か月ぶりプラス
東京	0.3	0.1	2か月連続プラス
横浜	-0.6	0.0	2か月ぶりマイナス
名古屋	3.3	0.2	2か月連続プラス
京都	-2.1	-0.1	2か月ぶりマイナス
大阪	-1.2	-0.2	4か月連続マイナス
神戸	-0.1	0.0	4か月連続マイナス
広島	-1.8	0.0	33か月連続マイナス
福岡	-0.2	0.0	28か月連続マイナス
10都市以外の地区	-1.1	-0.4	41か月連続マイナス
北海道	-6.6	0.0	2か月ぶりマイナス*
東北	-3.4	-0.1	32か月連続マイナス*
関東	-0.7	-0.1	41か月連続マイナス
中部	-3.8	-0.1	32か月連続マイナス
近畿	1.8	0.1	2か月連続プラス
中国	-2.6	-0.1	30か月連続マイナス*
四国	-1.6	0.0	41か月連続マイナス
九州	-0.4	0.0	39か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、家庭用品が2か月連続のプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品。婦人服・洋品、その他家庭用品、菓子が2か月連続のプラス、家電が5か月ぶりのプラス、化粧品も24か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.5	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-1.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	0.3	0.1	2か月連続プラス
子供服・洋品	-4.8	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-6.8	-0.2	33か月連続マイナス
衣料品	-0.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-2.1	-0.2	2か月ぶりマイナス
化粧品	1.4	0.1	24か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	-4.4	-0.2	45か月連続マイナス*
その他雑貨	-4.3	-0.2	36か月連続マイナス*
雑貨	-2.2	-0.3	33か月連続マイナス
家具	-6.1	-0.1	36か月連続マイナス
家電	28.4	0.1	5か月ぶりプラス
その他家庭用品	4.1	0.1	2か月連続プラス
家庭用品	3.2	0.2	2か月連続プラス
生鮮食品	-0.2	0.0	2か月ぶりマイナス*
菓子	0.1	0.0	2か月連続プラス*
惣菜	-1.6	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	-0.2	0.0	4か月連続マイナス*
食料品	-0.4	-0.1	4か月連続マイナス
食堂喫茶	-1.9	0.0	2か月ぶりマイナス
サービス	0.2	0.0	4か月連続プラス
その他	18.9	0.3	8か月連続プラス
商品券	5.6	0.3	13か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成22年11月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年12月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1,429億円余
2. 前年同月比	0.3% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭-1.7%(85.9%) : 非店頭14.5%(14.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年10月対比±0店)
5. 総店舗面積	945,055㎡ (前年同月比:-0.2%)
6. 総従業員数	20,974人 (前年同月比:-1.1%)
7. 3か月移動平均値	4-6月 -4.1%、5-7月 -3.0%、6-8月 -3.5%、 7-9月 -2.9%、8-10月 -1.3%、9-11月 -0.2%

[参考] 平成21年11月の売上高増減率は-11.9% (店舗数調整後)

【11月上の特徴】

- (1) 気温低下で防寒アイテムが好調に推移したが、具体的には、今年人気の高いファー付のコートのほか、セーター、マフラー、手袋、ブーツ、寝具などが活発に動いた。
- (2) 年末・年始に向けた季節商材のクリスマスケーキとおせちについて、11月の受注状況は二桁増で推移している。また歳暮の動きでは、ネット受注の大幅な伸びが注目される。
- (3) 24か月ぶりにプラスとなった化粧品売上の背景には、各店のコスメフェアが奏功したことのほか、9月頃から展開が始まっていた秋冬新商品の需要が、猛暑の影響で11月にずれ込んだことなどがある。
- (4) 都内でもエコポイントの駆け込み需要により、家電売上が8.2%の伸びを示しており、多くの店で二桁の大幅増を記録した。
- (5) 12月中旬までの都内各店の動向は、前年をクリアしている店も複数あるが、平均的には前年を若干下回る水準で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した: 11店、②変化なし: 2店、③減少した: 7店、④不明: 2店
- (3) 11月歳時記 (文化の日、勤労感謝の日、七五三、歳暮) の売上 (同上)
 - ①増加した: 7店、②変化なし: 5店、③減少した: 5店、④不明: 5店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する: 6店、②変化なし: 10店、③減少する: 3店、④不明: 3店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年11月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	142,924,940	100.0	0.3
紳士服・洋品	12,039,662	8.4	2.0
婦人服・洋品	29,405,299	20.6	0.2
子供服・洋品	2,188,246	1.5	-6.2
その他衣料品	2,923,295	2.0	-9.3
衣 料 品	46,556,502	32.6	-0.3
身のまわり品	17,007,552	11.9	-3.2
化粧品	7,535,832	5.3	0.7
美術・宝飾・貴金属	6,868,968	4.8	-0.4
その他雑貨	7,384,002	5.2	-5.7
雑 貨	21,788,802	15.2	-1.9
家 具	1,947,239	1.4	-12.4
家 電	831,820	0.6	8.2
その他家庭用品	5,138,159	3.6	13.7
家 庭 用 品	7,917,218	5.5	5.4
生 鮮 食 品	6,629,407	4.6	0.4
菓 子	9,646,813	6.7	0.1
惣 菜	7,647,489	5.4	-2.6
その他食料品	15,396,331	10.8	-0.5
食 料 品	39,320,040	27.5	-0.6
食 堂 喫 茶	3,213,585	2.2	-3.6
サ ー ビ ス	2,724,868	1.9	8.6
そ の 他	4,396,373	3.1	42.4

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	9,991,618 千円	29.3
従 業 員 数	20,974 人	-1.1
店 舗 面 積	945,055 m ²	-0.2

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、家庭用品が3か月連続のプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品。紳士服・洋品、婦人服・洋品、菓子が2か月連続、生鮮食品が3か月連続、その他家庭用品が5か月連続のプラスとなり、家電が4か月ぶり、化粧品が全国同様24か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.3	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	2.0	0.2	2か月連続プラス
婦人服・洋品	0.2	0.0	2か月連続プラス
子供服・洋品	-6.2	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-9.3	-0.2	31か月連続マイナス
衣料品	-0.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-3.2	-0.4	2か月ぶりマイナス
化粧品	0.7	0.0	24か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	-0.4	0.0	2か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-5.7	-0.3	30か月連続マイナス*
雑貨	-1.9	-0.3	31か月連続マイナス
家具	-12.4	-0.2	2か月ぶりマイナス
家電	8.2	0.0	4か月ぶりプラス
その他家庭用品	13.7	0.4	5か月連続プラス
家庭用品	5.4	0.3	3か月連続プラス
生鮮食品	0.4	0.0	3か月連続プラス*
菓子	0.1	0.0	2か月連続プラス*
惣菜	-2.6	-0.1	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	-0.5	-0.1	2か月ぶりマイナス*
食料品	-0.6	-0.2	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-3.6	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	8.6	0.2	8か月連続プラス
その他	42.4	0.9	8か月連続プラス
商品券	29.3	1.6	16か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>